

深海性ウミグモ類の多様性

—深海のゆりかご—

関口 翔悟

北海道大学 大学院 理学院

自然史科学専攻 多様性生物学講座Ⅰa



未来社会のあるべきかたち

◆ 海の多様性を記録・観測し続ける

◆ 記録を海の生態系の保全に役立てる

ウミグモのなかま

ウミグモ類はクモに似た、8本の細長い足をもつ海の節足動物です。クモやカブトガニなどと共に鋏角類に所属します。

浅い海から深い海の底(約7000 m)まで幅広く生息しています。

世界から約1400種、日本から約170種が知られていますが、まだまだ名前が分からない種がいるため、生き物に名前を付ける「分類学」の進展が必要です。

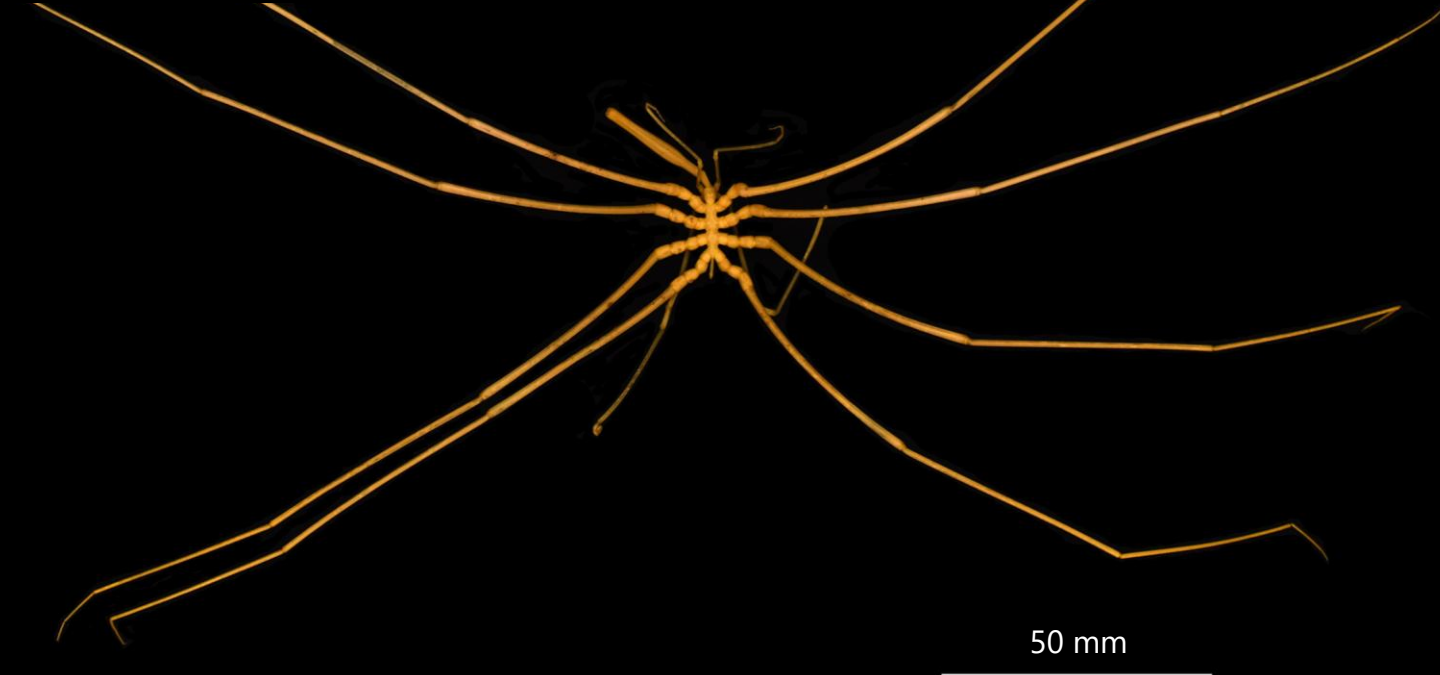
オオウミグモのなかま COLOSSENDEIDAE

最大種を含む、巨大な体をもつグループ。開いた足の幅は最大70 cmに達する種がいます。

オオウミグモ属の一種

Colossendeis sp. 1

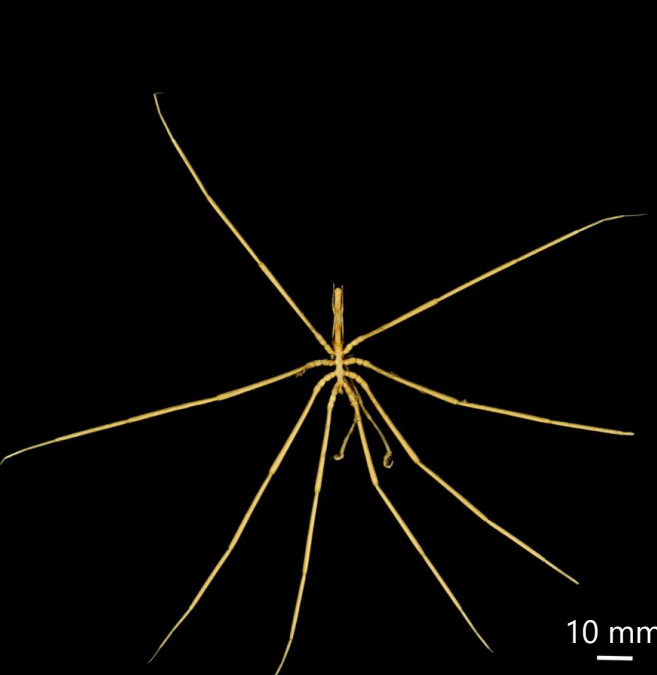
採集水深:2000 m



オオウミグモ属の一種

Colossendeis sp. 2

採集水深:2000 m



ウミグモのひみつ①

オオウミグモの足の先は鋭い針状です。これは、海底のやわらかい泥に突き刺して歩くためだと考えられます。

Colossendeis sp. 2



ユメムシのなかま NYMPHONIDAE

大きなハサミをもつグループ。深海で特に多様で、200種程度が知られています。

ユメムシ属の一種

Nymphon sp.

採集水深:2000 m



Heteronymphon属の一種

Heteronymphon sp.

採集水深:4100 m



ウミグモのひみつ②

ユメムシのなかまは、大きなハサミを持っています。発達したハサミを使って、エサである刺胞動物の体をつかんだり、切ったりして食べる姿が観察されています。



Bogomolova 2010より改変

カギノテウミグモのなかま PALLENOPSIDAE

日本では珍しいグループ。いくつかの種で深海のクラゲに寄生することが報告されています。

タカゲタカギノテウミグモ

Bathypallenopsis californica

採集水深:2000 m



ウミグモのひみつ③

カギノテウミグモのなかまは、つま先の爪とかかとのトゲが大きく発達します。もしかしたら、クラゲにしがみつくために、引っかかりやすい形になっているのかもしれません。



ウミグモにくっつく生き物①

最近、タカゲタカギノテウミグモの体に、ウミシダ(棘皮動物)のこどもがくっつくことが分かりました。これは、ウミグモにウミシダがくっつく世界初の発見となりました。



トックリウミグモのなかま ASCORHYNCHIDAE

発達した吻(口が先端に開口する器官)を含むグループ。

ヤマトトックリウミグモ

Ascorhynchus japonicus

採集水深:2000 m



ヘビジタトックリウミグモ

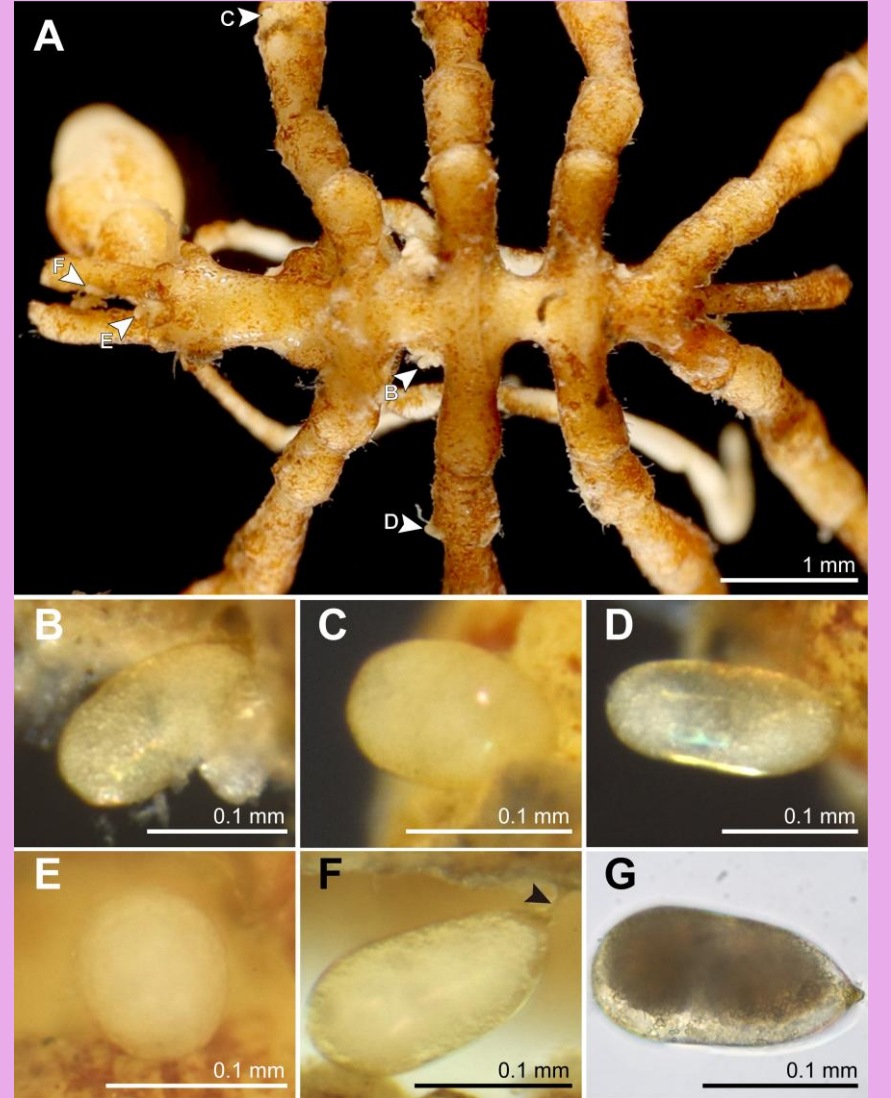
Ascorhynchus mariae

採集水深:3700–3900 m



ウミグモにくっつく生き物②

最近、ヘビジタトックリウミグモの体に、扁形動物の卵がくっつくことが分かりました。ウミグモの体は、いろんな生き物にとって「深海のゆりかご」なのかもしれません。



ウミグモのひみつ④

トックリウミグモの仲間は、ほかのウミグモよりも発達した、動かしやすい吻を持っています。ウミグモの吻は、前方で食べ物を吸い込み、後方で異物をろ過するという2つの機能を持っています。

